

# NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2014年03月04日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。  
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2013000003"/>	整理番号 <input type="text" value="11759"/>	担当者 <input type="text" value="松岡 義人"/>
表 題	<input type="text" value="自然の浄化作用で排水処理を行う人工湿地の必要面積を最小限にする技術"/>		
技術分野	<input type="text" value="土木・建築"/>	<input type="text" value="食品・バイオ"/>	<input type="text"/>
適用製品	<input type="text" value="下水処理、畜産排水処理、工場排水処理、農業排水処理、緑化、花壇"/>		
目 的	<input type="text" value="人工湿地は、自然の浄化機能を強化した半人工的な排水処理方法である。曝気を要しないため排水処理の運転に要するエネルギーが活性汚泥法等の従来技術の20%で済むことが長所であるが、必要面積が大きいことが短所であった。"/> <input type="text" value="本発明は、その必要面積を従来の人工湿地の25%以下にすることを可能とする技術であり、工場立地法で定められる緑地を活用した新しい高度排水処理の道を切り開く発明である。"/>		
技術概要	<input type="text" value="本発明は、水質浄化用の人工湿地に必要な面積を格段に縮小することを可能にするものである。例えば、これまでの人工湿地で下水の高度処理を行うためには、ヒトひとりあたり2平方メートルの面積が必要であった。これは単位面積あたりの酸素供給フラックスが水質浄化能力の制限となるためであった。"/> <input type="text" value="本発明技術では、大気との接触と換気を促進する空気層を人工湿地の内部に設けることにより(発明1)、この制限を打破することができる。また、空気層により人工湿地内に重層的に好気ゾーンを創出することで(発明2)、単位面積あたりの酸素供給フラックスの究極的な改善が見込める。さらに空気層の厚さや位置を調整により(発明3)、人工湿地内部の好気・嫌気ゾーンの調整も可能であり、単独の湿地で多段処理を行う道が切り開かれる。本技術は、下水以外にも、畜産排水、工場排水、農業排水等、さまざまな排水処理に適用可能である。"/>		

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>
(ふりがな)	<input type="text"/>
氏 名	<input type="text"/>
会社名	<input type="text"/>
所 属	<input type="text"/>
役職	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>
FAX番号	<input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>
連絡事項	<input type="text"/>



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp